

フェーズ2 ～検討・開発～



✓	Check ! (実施しているものにチェック)	参考
☐	<開発会議> 架け橋カリキュラムの【共通の視点】の検討	
☐	<開発会議> 保育者・小学校教員が協働して開発するための支援（市町村での研修等）	ワーク5～9
☐	5歳児～1年生の2年間を対象としている	
☐	事前・事後打合せ等、幼児と児童の双方に学びのある交流を工夫	

★実施のポイント

○カリキュラムの【共通の視点】を明確化する

文部科学省の「幼保小の架け橋カリキュラムの実施に向けての手引き（p.21～30）」等を参考に、カリキュラムの共通の視点を決定しましょう。

本資料の【共通の視点】

「育てたい子どもの姿」「育みたい資質・能力」「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」
「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」「交流・連携計画」「家庭との連携」

○最初に、「育てたい子どもの姿」について話し合おう

肯定的に子どもの育ちを捉え、市町村（または小学校区等）で「育てたい子どもの姿」について最初に話し合い、共通のイメージをもちましょう。

「就学時」だけに限らず、0～18歳までの発達の連続性の中で、「育てたい子どもの姿」をイメージしながら、未来志向の語り合いができるとよいですね。

○保育者と小学校教員で意見交換しながら一緒に作る

担当部分について個別に考えてきたものを合体すると、つながりがないものになり、後で修正するのは困難です。写真等を用いて説明し、互いの教育について相互理解しながら、一緒に作っていくことが、保育・授業の改善にもつながります。できるだけ同じ構成員で進めていくことが、うまくいくポイントです。

○一人一人の実態に応じた支援について共に考える

一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら、子どもの実態に応じた適切な支援について考えましょう。

保育者と小学校教員
1学期

【共通の視点】育てたい子どもの姿
～保育者と小学校教員が共に育てていく子どもの姿を語り合う～

- ・保育者と小学校教員が、架け橋カリキュラム作成の第一歩として、どのような子どもを育てたいのかを、具体的な姿をイメージしながら語り合う研修である。
- ・保育者と小学校教員が「育てたい子どもの姿」を共有するとともに、互いの教育内容や指導方法について知り、それぞれのよさを尊重しつつ、幼児期の学びと小学校の学習のつながりを意識できるようになることが大切である。

準備

グループ協議用ワークシート、付箋、カラーペン
園や学校のグランドデザイン等 教育目標が書かれた資料
県や市町村の教育目標が掲載された資料

1. アイスブレイク (10分)	○自己紹介をする。 氏名・最近行った嬉しかったできごと・自分のクラスで流行している遊び
2. イメージの共有 (10分)	○本研修会のねらいについて押さえる。 市町村や小学校区の「育てたい子どもの姿」を考えることで、架け橋カリキュラム作成につなげることを伝える。
3. 架け橋タイム (グループ協議) (40分)	○各自で「育てたい子どもの姿」を考え、付箋紙1枚につきキーワードを1つずつ記入する。 ・園や小学校の教育方針を踏まえて考える。 ・市町村の教育方針、コミュニティスクールの目標等があれば参照する。 ○グループ内で共有する。 ・付箋紙をグループ協議用のワークシートに貼りながら、なぜそのキーワードにしたのか理由を紹介し合う。 ・付箋を動かしながら、内容ごとのまとまりを作っていく。 ・まとまりごとに見出しをつけるなどして、内容を整理する。 私の学校の教育目標に「人とつながる学び」があります。人とつながるために大切なこととして、私は「思いやり」を記入しました。 「協力できる子」と「友達が好き」というキーワードも、よりよい人間関係づくりに関連しますね。3つは同じまとまりに入れましょう。 ・「育てたい子どもの姿」を1つのキャッチフレーズにまとめる。 例) なかまとワクワク やってみたいをやる子 ～一人でも、みんなとでも～ ○全体で、各グループのキャッチフレーズを理由とともに紹介し合う。
4. 振り返り (10分)	○研修会の感想を共有する。 ○講師の話（いる場合）

<進め方のポイント>

- ・市町村主体の研修にする場合は、小学校区でグルーピングすると、より円滑な連携につながる。
- ・ワークで話し合ったことを、架け橋カリキュラムの「育てたい子どもの姿」に反映させる。

令和〇年度 〇〇市(〇〇小学校区) 架け橋カリキュラム ～「育てたい子どもの姿」を考えよう～

	5歳児	1学年
育てたい子どもの姿 (ワークの最後にキャッチフレーズにしましょう)		
キーワード等		
育みたい資質・能力	知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか) 思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか) 学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかにによりよい生活を営むか) 遊びを通しての総合的な指導 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか) 学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか) 思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることをどう使うか) 「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化	

【共通の視点】大切にしたいこと

～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わりについて考える～

- ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を保育者と小学校教員が改めて捉え直す。
- ・「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」について保育者と小学校教員が意見を出し合い考えていく。

準備

5 歳児、1 学年の遊び込んでいる、学び込んでいる写真
 自校のスタートカリキュラム、自園の指導計画等、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領
 県や市町村の教育目標が掲載された資料、模造紙、付箋、カラーペン、ワークシート

1. アイスブレイク (10 分)	○「わたしの〇×クイズ」を行いグループの中で話しやすい雰囲気を作る。 ・一人ずつ自分に関する〇×クイズを考える。 ・一人が出題し、残りの人は解答する（〇×のジェスチャー） ・それにまつわる質問をしたり、感想を言い合ったりする。
2. イメージの共有 (5 分)	○研修のねらいやグループ協議の流れについて主催者が説明をする。 ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を考えた上で、環境の構成、先生の関わりを共有し、架け橋カリキュラム作成につなげることを伝える。
3. 架け橋タイム (グループ協議) (45 分)	○各自が持参した写真を模造紙に並べながら、何を大切にしたい写真なのか伝えていく。 ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を中心に伝えていく。その場面の環境の構成、先生の関わりも一緒に話をしていく。 ・質疑応答をしながら、大切にしたいことのキーワードが見えてきたら、付箋に記入し、写真の横に貼っていく。 ○グループ全員の持ち寄った写真について話し終わったら、「育てたい子どもの姿」や「育みたい資質・能力」をもとに、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」、環境の構成、先生の関わりについてキーワードで整理する。 ○幼児教育と小学校教育の育ちや学びのつながりについて、気が付いたことを話し合いながら、カリキュラムワークシートにキーワードをまとめていく。 幼児教育施設のこの活動は、私が持参した1年生のこの活動と似ている。 あ！配慮事項も一緒。
4. 振り返り (15 分)	○グループの代表者がキーワードを全体に共有する。 ○共有した「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」や「指導上の配慮事項（環境の構成、先生の関わり）」を架け橋カリキュラムへ反映させていく。

<進め方のポイント>

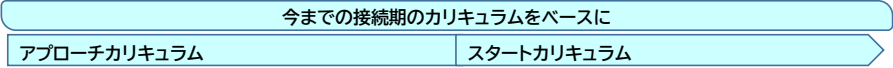
- ・写真を使って協議することで具体的に話ができ、その時の子どもの様子が共有しやすくなる。
- ・保育者と小学校教員とのグループで協議することによって、育ちと学びのつながりを意識した「大切にしたいこと」が明確化されていく。
- ・相互理解することにより、子どもの発達を長期的な視点で捉えることができ、架け橋カリキュラム作成の手がかりとしていくことができる。

令和〇年度〇〇市(〇〇小学校区)架け橋カリキュラム(イメージ) ～「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと・環境の構成・先生のかかわり」を考えよう～

RO.O.O現在

項目		5 歳児												1 学年											
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
育てたい子どもの姿																									
育みたい資質・能力		知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、 何を感じたり、何が分かったり、何が できるようになるのか) 遊びを通しての 総合的な指導 思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるように なったことなども使いながら、どう考えたり、 試したり、工夫したり、表現したりするか) 学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、 いかによりよい生活を営むか) 幼児期の終わりまでに育っ てほしい姿 ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形、標識や文字な どへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 方向目標 続けて 育んでいく 学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか) 知識・技能 (何を理解しているか、 何ができるか) 「確かな学力」「健やかな 体」「豊かな心」を総合的 にとらえて構造化 思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることを どう使うか)																							
遊びや学びの プロセスで 大切にしたいこと																									
指導上の 配慮事項	環境の構成																								
	先生の 関わり																								

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ～0歳から18歳までの発達の連続性を見通して～)



保育者と小学校教員
夏期～秋期

【共通の視点】指導上の配慮事項
～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう①～

- ・ 保幼小接続期の特別支援教育について理解を図り、架け橋カリキュラムに反映できるようにする。
- ・ 子どもの様子や担当者の悩みを伝え合い、共感できるようにする。特に困り感だけで捉えず、肯定的な捉えや支援方法について意見交換していく。
- ・ 保幼小や特別支援教育の担当で研修内容を共有し、今後の実践に生かしていけるようにする。

準備

講話資料、ワークシート、筆記用具、プロジェクター

1. アイスブレイク (5分)	○自己紹介（最近のブーム、最近嬉しかったこと等）
2. イメージの共有 (40分) 【講師講話等】 (大学教員、特別支援学校特別支援教育コーディネーター、市町村教育委員会指導主事等)	○講話 「架け橋期における気になる子どもの支援について」 (例) ・ 合理的配慮について ・ 配慮が必要な子どもへの具体的な支援について ・ 環境の構成について 等 
3. 架け橋タイム (グループ協議) (30分)	○講義の感想について伝え合う。 ○現在行っている指導上の配慮について伝え合う。 ○架け橋カリキュラムへ反映させたい内容を伝え合う。 (例) ラウンド・ロビン法：ブレインストーミングの一種で、意見やアイデアを順番に話していく手法。話した人の考えに質問や評価はせずに、新しい考えを次々に伝える。  同じ活動の中でも、一人一人の実態に合わせて目標を設定しているんですね。
4. 振り返り (15分)	○全体で意見を共有する。 ○環境の構成や先生の関わりなどに関して、自園・自校のカリキュラムに反映させたい内容を記録しておく。 <意見から> ・ 講話をもとにして、一人一人の児童の捉えや関わり方について考え、日々の学習の場面で意識していきたいと思いました。(小学校) ・ 様々な配慮を要する子どもに関して情報を共有できて勉強になりました。また、小学校の先生と話し合うことで、保幼小で連携することの大切さがよく分かりました。(保幼) ○講師からの助言

<進め方のポイント>

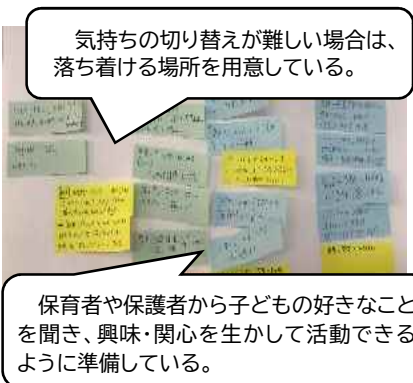
- ・ 講話やグループワークのテーマを明確にし、参加者の意見を十分に共有できるような人数や活動の設定が必要である。
- ・ 市町村等で開催の場合は、小学校区の主体的な連携の取組が進めやすいように、小学校区での班編成を行うとよい。
- ・ 多様な子どもの姿を共有することで、子どもの実態に合わせた環境の構成や先生の関わりの視点を架け橋カリキュラムに反映していく。
- ・ 特別支援学校の特別支援教育のセンター的機能である、「教員への支援・研修協力機能」、「特別支援教育等に関する相談・情報提供機能」を活用し、配慮事項に関する助言や研修会の講師などを依頼することができる。

保育者と小学校教員
夏期～秋期

【共通の視点】指導上の配慮事項
～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう②～

- ・ 共通の事例を共有した後、関連する気になる子どもへの支援についてテーマを決めて話し合うことで、一人一人の実態に応じた環境の構成や先生の関わりについて検討していく。
- ・ これまでの子どもの実態や配慮事項、支援方法について好事例等を共有し合うことで、参加者が多面的な視点で子どもを捉え、具体的な支援を考えることができるようにする。

準備 事例資料、ワークシート、筆記用具、動画、プロジェクター

1. アイスブレイク (5分)	○自己紹介（最近のブーム、最近嬉しかったこと等）
2. イメージの共有 (30分) 【動画視聴または、事例の共有】 ○事例の場合には個人が特定できないように配慮をする	○動画を視聴したり、事例の説明を聞いたりしながら、対象となる子どもの姿をイメージする。 (参考資料) ・【動画】文部科学省選定 特別支援教育・保育ビデオ「みんなで育てる みんなで育つ 子どもの困難さに寄り添う保育」企画・製作・著作・販売 幼児教育映像制作委員会 ・【事例】文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料」P36
3. 架け橋タイム (グループ協議) (40分)	○動画や事例の内容に関連した、配慮が必要な子どもに関して、各園・各学校の子どもを想定し、話し合う。 (気になる子どもの例) ・ 個別の活動が中心となる子ども ・ 言語などの発達がゆっくりな子ども ・ 活動の切りかえが難しい子ども (方法例) ・ KJ法：付箋などに情報やアイデア等を書き、意見を出し合いながら、共有したり整理したりしてまとめていく。  気持ちの切り替えが難しい場合は、落ち着ける場所を用意している。 保育者や保護者から子どもの好きなことを聞き、興味・関心を生かして活動できるように準備している。
4. 振り返り (15分)	○感想を伝え合い、架け橋カリキュラムに反映させたい内容を書き留めておく。 <意見から> ・ 今年度入学した児童の様子を伝えるとともに昨年度までの取組を共有できたので、明日からの支援方法に生かしていきたい。(小学校) ・ 他園の幼児の話であったが、自分の園にも似ている幼児がいるため、参考になった。(保幼) ・ 小学校の特別支援学級の様子や学習への支援方法を知ったので、これらを参考にして、5歳児の活動や環境の構成に生かしていきたいと考えた。(保幼)

<進め方のポイント>

- ・ 研修担当者が参加者に協議内容を共有する場合には、園・学校名や子どもの個人情報などに配慮する。
- ・ 話し合った内容を架け橋カリキュラムの「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」の参考とする。

架け橋カリキュラム「指導上の配慮事項」
～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう～

子どもの姿 例) 個別支援を要する 子ども 活動の切りかえが 難しい子ども	指導上の配慮事項	
	環境の構成	先生の関わり

グループの人数や事例の件数に応じて枠を調整する。

架け橋カリキュラムへ反映 させたい内容 (上記記録に印を付けるの でもよい)	
---	--

【共通の視点】指導上の配慮事項
～就学に向けて具体的な支援を共有しよう～

- ・就学前の情報交換を行うことで切れ目のない支援につながるようにする。
- ・保育者から幼児期の支援方法を伝えるとともに、保育者と小学校教員で小学校の支援方法を共に考え、架け橋カリキュラムに反映する内容の参考とする。
- ・幼児教育施設・小学校の支援の体制を共有し、環境の変化に対して不安や戸惑いを感じた時の子どもの様子について伝えておく。

準備 事例資料、ワークシート、筆記用具

1. 説明 (5分)	○情報交換の進め方を説明する。 ○情報交換したことを参考に、子どもの実態を捉え、支援方法を検討し、「架け橋カリキュラム」に反映していくことを伝える。
2. 個別情報交換 (40分) → 4 × 10分 【小学校1校と幼児教育施設1園での情報交換とする。待機時間は教材展示見学や幼児教育施設同士での情報共有を行うとよい】	○現在、個別の支援を行っている幼児について知らせる。 ○今後の様子を予測し、支援方法や環境設定について話し合う。 (ワークシートを記録用紙として活用) ・幼児教育施設での子どもの様子・支援方法 ・小学校の支援方法 等 △△さんは、予定表を絵カードで伝えると見通しをもちやすいです。  教材を展示したフリースペース  〇〇さんは、全体指示の後に個別に伝えると活動を理解しやすいです。
3. まとめ (5分)	○就学前の連携だけではなく就学後の情報共有・授業参観の重要性について説明をする。 ○ワークシートに「架け橋カリキュラム」に反映させたいことを書き留めておく。 <アンケートの意見から> ・入学時の環境設定の参考になりました。落ち着くことができる場所の設定や座席の場所・向きなどを入学時から配慮していきたいと思います。(小学校) ・これまで卒園していった児童の話を聞いて、特別支援学級や交流学級での時数や支援の内容などを知ることができて安心しました。また、次年度卒園の幼児に対する情報交換を行うことで円滑な入学につながって欲しいと思います。(保幼)

<進め方のポイント>

- ・就学に向けての具体的な情報交換の場となるため、個人情報の取り扱いには十分に留意する。複数の教室や体育館・会議室等でブースを作成し、他のブースとの距離が近くなるように配慮する。
- ・個人情報に関わる可能性があるため、全体での情報の共有は控える。
- ・就学する子どもの実態や具体的な支援方法を知り、カリキュラムの目標や活動内容・場所の設定などを柔軟に対応できるようにする。
- ・保幼小接続コーディネーターと特別支援教育コーディネーターが連携し、特別支援学級や通常の学級に在籍する子どもについて様々な状況把握や支援方法の検討ができる体制を作ることが重要である。

架け橋カリキュラム「指導上の配慮事項」 ～就学に向けて具体的な支援を共有しよう～

情報交換先	幼児教育施設での子どもの様子・支援方法	小学校の支援方法

架け橋カリキュラム に反映させたい内容	○環境の構成 ○先生の関わり
------------------------	---

○ワークシートは情報交換の記録用紙の参考例であり、状況に応じて調整する。
(個人情報の取り扱いには十分注意する。)

保育者と保護者(3学期)
小学校教員と保護者(4月)

保護者と連携しよう
～架け橋期の教育について保護者と共有するために～

- ・架け橋期の教育を保護者に紹介し、家庭と園、学校が連携することを目的とした研修である。
- ・保育者または小学校教員が、子どもたちの遊びや学びの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に当てはめて具体的に伝えることで、保護者が幼児期の学びと小学校以降の学びのつながりを理解できるようにする。
- ・保護者が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして子どもたちの学びの姿を共有し、家庭での関わりを考えることをねらいとしている。

準備

動画コンテンツ「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”」
(文部科学省)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>

各園、小学校の遊びや学びの場面を紹介する写真 又は 動画



1. アイスブレイク (10分)	○参加者同士で自己紹介をする。 氏名・最近ちょっと嬉しかったこと・丸3日フリーになったら、したいこと
2. イメージの共有 (20分)	○本研修会のねらいについて押さえる。 ・動画コンテンツを視聴する。(7分20秒) 幼児教育施設においては、子どもたちに遊びを通して資質・能力を育んでいること、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていることを紹介する。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を紹介する。 子どもたちの遊びや学びの場面を写真や動画で示し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせて成長の様子を伝える。 自立心 自然との関わり・生命尊重 思考力の芽生え 豊かな感性と表現 協同性
3. グループワーク (20分)	○保護者の関わりについて、グループで考える。 <例>「自立心」を育むために・・・ ・はいていく靴下など、小さな事から自分で決められるようにする。 ・植物の水やりなど、自分の役割を楽しみながら果たせるようにする。任せたことは多少時間がかかっても見守る。 <例>「言葉による伝え合い」を育むために・・・ ・話を途中でさえぎったり、親が先回りして結論を言ったりしない。 ・目を見て「どうしたの?」「ゆっくりでいいよ」と声をかけながら話を促していく。
4. 振り返り (10分)	○まとめ グループで話し合ったことを共有する。

<進め方のポイント>

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は子どもの成長の方向性を示すものであり、到達目標にしたり個別に取り出して指導したりするものではないこと、一人一人の発達に応じて育まれていくものであることに留意する。
- ・子どもの学びや遊びの場面をあらかじめ写真や動画に記録しておき、保護者に伝える際に活用する。
- ・保育者や小学校教員の関わりも伝え、家庭での関わりを考える際の参考になるようにする。
- ・グループワークでは、保護者同士が4人程度で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち1つのテーマを選んで話し合う。あらかじめ話しやすいテーマを進行側で決めておいてもよい。